レッスン：19“M”

テーマ：多重性/質問と答え

MAC19/DOC/KE４

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たちよ。私達は常に神、絶対、神の聖性に抱かれています。

　　このレッスンでは、創造界においてもそれ自身を現している絶対存在のもう一つの特質について話しましょう。このもう一つの特質とは、いわゆる絶対存在の多重性です。絶対存在は一つですが、それは多様な状態にあります。

　　以前に、絶対存在は無数の聖なるモナドから構成されており、各聖なるモナドは無数のSpirit Being（スピリットである存在）から構成されている、と述べました。これらのSpirit Beingの中には、創造界にそれ自身の微細な部分をスパークとして投射するものもあれば、人間のイデアを通じて下降するものもあり、またいわゆる聖霊的現れを通じて下降して様々なアークエンジェルのオーダー（組織）を与えるものもあります。人間のイデアを通じた現れはいわゆるロゴス的現れであり、私達はいわゆる魂のセルフ・エピグノシスの創造を有しています。魂のセルフ・エピグノシスは多重性を表現するのでしょうか？魂のセルフ・エピグノシスとして、私達は最内奥の本質を完全に現しており、もし多重性が私達の最内奥の本質的特質の一つであるなら、確かに私達はそこに多重性を表現しているはずです；しかし、どのようなフォームで表現しているのでしょうか？私達の魂のセルフ・エピグノシスは私達がそれを認識し、理解できるべく、どのような多重性を、そしてどのようなフォームを表現しているのでしょうか？さらに、私達の魂のセルフ・エピグノシスの多重性をどのようにして経験できるのでしょうか？

魂のセルフ・エピグノシスの多重性は理解を越えており；全てが全ての中にある、という状態です。魂のセルフ・エピグノシスは全ての中にあり、全てはまた魂のセルフ・エピグノシスです；粗雑な物質というフィルターを通じてこのリアリティーを認識し、理解するのは不可能です。

さて、実存の世界におけるこの多重性について、もう少し拡大してみましょう。前回のレッスンでは、素質的可能性のサイクルと蓋然的可能性のサイクルという二つのサイクルについて述べました。素質的可能性としてのサイクルの現れは、実存の世界つまりLifeの現象の世界における蓋然的可能性のサイクルによって制約されます。この特質、このクオリティー、つまり多重性の表現はどうなるのでしょうか？蓋然的可能性のサイクルはこの特質、このクオリティーが表現されるのを許すでしょうか？つまり、多重性の現れが実存の世界で表現されるでしょうか？あなたはどう思いますか？そうです、表現されるのです；さもなければ、私達は前進し、現れとしてこれらの世界に入って獲得しようとするものを、獲得することは不可能でしょう。

　どのようにして、いかにしてこの多重性は実存の世界で表現されているのでしょうか？それは私達自身のフォームつまり形と同一の無数のエレメンタルを作ることによって表現されます。形が同一であるこれらのエレメンタルは思考・行動の仕方にいたるまで私達の特徴を有しており、これらのエレメンタルが気づきのレベルを示しているのです。その数は？自己と同一の、群れをなす無数のエレメンタルです。ですから、実存の世界においても私達には多重性の表現があるのです。私達は無知の中にあってもそのようなエレメンタルを意識的に作れるのでしょうか？答えはノーです。これら全てのエレメンタルは無意識的に作られます；しかし、人間は自分自身によるこれら全ての創造物を創造し、コントロールする方法を学ぶことができます。

page2

　　魂のセルフ・エピグノシスはそのようなエレメンタルを作るのでしょうか？答えはノーです。魂のセルフ・エピグノシスは創造界に浸透しており、全ての中にあり、その形に同一なそのようなエレメンタルを創造することはありません。

　　私達と他の人々との関係はどうでしょうか？私達は誰かを知っており、誰かは私達を知っています。お互いに知っていたり、他の人々に知られていることによって、私達は何を作りだすのでしょうか？例えば、「あなたは誰それを知っていますか？」と質問され、「はい、私は彼を知っています」と答えます。その時、私達はすぐさまその人を自分の前に連れてきます。私達は何を作るのでしょうか？その人と同一のエレメンタル、イリュージョンを作りだすのです。私達自身が作ったものであるにせよ、そのエレメンタルは現れを有しており、その現れは必ずしも私達が好むようなものではないかもしれませんが、しかしその特定の人物の現れと同一の表現です。そのエレメンタルは私達が作ったものですが、それはそれが示す魂(Soul)に加わります。

　　それでは、この次元から去り、他の次元、いわゆるサイコノエティカル界に入った人の場合はどうなのでしょうか？その人はどこにいるのでしょうか？全ての人のためにそこにある世界にいるのでしょうか？どのぐらい多くのサイコノエティカル界があるのでしょうか？以前、創造界における人間の気づきと同じ数のサイコノエティカル界、あるいは波動がある、と述べました。その数は？数えられません、無数にあります。なぜでしょう？なぜなら、そこでは全ては個人の気づきのレベルによって生み出されるからです；私達はそれらの波動の中で、私達が馴染んでいるものと一緒に、自分自身がいる環境・周囲を創造し、自分自身の同一体(identical)を創造するのです。

　　しかし、私達が愛する人々、よく知っていた人々、毎朝のように道で見かけた人々、会社で毎日顔を会わせていた人々などはどうでしょうか？私達はそれらの人々をも作りだすのでしょうか？そうです、私達は全てのものを、全ての人々を創造するのです；おそらく、あなた方がこの事実、このリアリティーに直面するのは初めてかもしれません。私達は誰をも、そしてあらゆるものを創造しますが、これら私達が作るもの全ては、そうあるようにと私達が思うような状態なのでしょうか？私達が関係づけるこれら全ての現われは、私達が欲するように表現されるのでしょうか？

　　これらの現われはそれぞれ、それらが示す特定のパーソナリティーの現われと同一です。それら一つ一つは現れとして、その特定のパーソナリティーの思考・行動の仕方を表現しています。

　　今でも、これらの（＊この世界の）波動において、あなたが他の人々を見るとき、彼らはあなたが欲するように自分自身を現しているのでしょうか？違います、私達は全てのものを、全ての人々を作りだしますが、私達が誰かを作りだした瞬間から、その創造された誰かはその特定のパーソナリティーの投影なのです。その特定のパーソナリティー、つまり一人のパーソナリティーに対する創造はどれほどの数になるのでしょうか？無数にあります。どれほど多くの人々がお互いに知っているか想像できますか？非常に多くの人々が私達を知っています！しかし、それだけではありません。例えば、私達がずっと前にある人を知っていて、その後しばらく会わずにいたとします。その場合、過去に私達が作ったエレメンタルは、私達が再びその人に会う時に作るエレメンタルと同じだと思いますか？違います。各エレメンタルは私達がその特定の人を知っていた時の気づきのレベルを示しており、将来再びその人に会った時のエレメンタルはその時の特定の気づきのレベルの真の表現となるのです。そのようなエレメンタルは一体どのぐらいの数になるのでしょうか？数えきれないほど無数にあります。

　　さて、今までの話してきた思考のつながりによって、どのような結論に至るのでしょうか？サイコノエティカル界では、私達はあらゆるもの、あらゆる人を作りだします。

これらの波動の中に入る人（＊肉体を去る人）は背後に何をも残しません；その人は全てのもの、全ての人を一緒に携えて入ってきます。これらのエレメンタルとしての創造物はどうなるのでしょうか、それらのエレメンタルはそれらのパーソナリティーの本当のセルフ(real self)と何か違いがあるのでしょうか？私達が創造したエレメンタルとそれが示す実際のパーソナリティーとの間には違いがあるのでしょうか？どう思いますか？いいえ、全く違いはありません。それらはどれもインナーセルフ(Inner Self)と似たものを表現しておらず、アイコン（＊類似記号）にすぎません。ただ、表現、現れではなく、進化の仕方には非常に僅かな違いがあります。現れとしての実際のセルフ(self)、つまり実際の現れの中心には永遠のアトムがあります。しかし、他の全ての創造物も永遠のアトムの再形成(reshaping)の結果を現しています。それらの内側には永遠のアトムはありませんが、それらは永遠のアトムの再形成(reshaping)の結果を表現しています；実際、これが唯一の違いです。

　page3

　　“創造されたエレメンタル”には進化、成長があるのでしょうか？それは、そのエレメンタルを創造したパーソナリティーの気づきのフィルターによります。

もし、そのパーソナリティーの気づきが、物質界の波動の中で特定のパーソナリティーの実際の進化、成長を目撃するようなものである場合、特定のパーソナリティーを示すエレメンタルはそれが示すパーソナリティーの実際の進化に従います。

　　それでは、これらの波動から去り（＊死んで）、他の波動に入る人の場合はどうなのでしょう？その人はそれらの波動の中で、その人よりも何年も前に去った愛する人々を見い出すのでしょうか？良い質問です！私達は全てのもの、全ての人々を創造します。私達自身がそれらの波動に入る以前に物質界を去った人々は、私達がまだ物質界にいる時に自分が他の波動の世界に入ったことを知っています。私達は他のバイブレーションの中で彼らを作りだすのでしょうか？

　　この現実の波動の中にいる時に私達が知っていたもの全てを、そこで創造するのです；私達は別の波動の中に意識的に入るのでしょうか？私達は自分が別のバイブレーションの中に入るのを、あるいはこれらのバイブレーションを去り、別のバイブレーションに入るのを認識するのでしょうか？いいえ、私達は自分が死ぬのを認識しません。これらの波動の中で馴染んできたのと同じような仕方で、引き続き別の波動の中でも生き続けるのです。

　**そうです、私達は自分が知っていた愛する人たち全てを作りだすのです。**

どのようにして？**死ぬ前と全く同じように周囲の環境を創造するのですが、生前において最も幸せに感じ、気に入っていた時代の周囲の環境を創造します。**

例えば、もし私達が非常に年老いて死ぬ場合、別の次元の中では、年老いた自分自身の姿でいることはありません。愛する人たちに囲まれていたり、その他、自分が気に入っていた年齢時の自分自身を表現します。

これは“神のご慈悲”の結果です。これらの波動にいる間、私達はより良く進んでいくチャンスを与えられています。確かに、これら全てはイリュージョンだと考えるかもしれません。実際、そのとうりです。しかし、私達が今この世界で体験しているような意味でのイリュージョンとは違います。なぜならば、私達はイリュージョンの諸世界に生きているからです。この実存の諸世界ですら、全ては全ての中にあるのですが、私達はそのことに気づいていません。

　　もし私達が誰かの同一体(identical)を作りだすことができ、その同一体が直ちにその特定の人と一緒になってその人の現れの特徴全てを表現するとしたら、私達のお互いの関係はどうなるでしょうか？それについて考えてみてください。世界的に有名な人物、例えば大きな国、強大な権力のリーダーのような人、あるいは多くの人々が注目する有名なスターなどの場合、その人の同一体がどのぐらいあるか想像できますか？

　　人々が特定のパーソナリティーに注意をフォーカスする結果、同一体が無数に創造されます。その同一体は特定のパーソナリティーを完全に表現しており；それらの同一体は死ぬことがありません。それらはいわゆる汎宇宙的無意識、永遠の今の中に存在し続けます。確かに、エネルギーを失っていくかもしれませんが、死ぬことはありません。一体、どのぐらいの数になるのでしょうか？数えきれません。

　　さて、同一体へフォーカスすること、あるいは（＊肉体を去った）過去のパーソナリティーを示すエレメンタルにフォーカスすることはどうでしょうか？過去のこの特定のパーソナリティーを現在に、表面に浮かび上がらせることができるでしょうか？できます、その特定のパーソナリティーにフォーカスすることによって、私達はエレメンタルにエネルギーを与えることになります。恐らく、一つではなく多くのエレメンタルです；それは私達がその特定のパーソナリティーにフォーカスする期間によります。時間という場合、その特定のパーソナリティーが時間・空間の意味内にいた時のそのパーソナリティーの現れとは異なった期間を意味します。エレメンタルの数は？多数のエレメンタルです。

page4

　　このようにフォーカスすることは許されているのでしょうか？危険はないのでしょうか？そうしてもよいのでしょうか？答えはノーです。私達は過去のエレメンタルにフォーカスしたり、エネルギーを付与すべきではありません。非常に高いレベルの気づきの意識、英知を示すエレメンタルの場合はどうでしょうか？その場合なら大丈夫ですか？答えはイエスです。どのエレメンタルにフォーカスしているのかを私達が知っているならオーケーです。

　人間についてはどうでしょうか？私達は意識的にエレメンタルを創造できるのでしょうか？できますが、私達がいわゆる超意識のセルフ・エピグノシスを表現している時に限って、私達は（＊意識的に）自分自身あるいは他人の同一体を創造することができるのです。さて、私達の超意識のセルフ・エピグノシスの結果として、それらのエレメンタルを意識的に創造する場合、永遠のアトムの結果として何が生じるのでしょうか？以前に、永遠のアトムは中心であるパーソナリティーのみに根差している、と述べました。どうなるのでしょうか？超意識のセルフ・エピグノシスを表現するということは、現在のパーソナリティーの不定形な体が完全に再形成されたこと、あるいはほぼ再形成し終わったことを意味します。それでは、永遠のアトムはどこにあるのでしょうか？あらゆるところにあります。今や、意識であるセルフ・エピグノシスは全ての中にあり、全ての体、全ての創造物の中に広がっています。誰も私達の同一体を見て、「あー、これは本当のセルフ(self)だ」と言うことはできません。違います、それら全ては同じであり、それらはインナーセルフ(Inner Self)の特質を完全に表現しています。このインナーセルフとは私達の魂のセルフ・エピグノシスのインナーセルフではなく、現在のパーソナリティーあるいは最新の現在のパーソナリティーが達成したもの全てのことです。

　　さて、このパーソナリティーは時間・空間の意味の中でこれらの同一体を投射することができるのでしょうか？このパーソナリティーは他人を助けるために、時間・空間の意味の中でエネルギーを付与された同一体を残すことができるのでしょうか？答えはイエスです。一つのみならず、多くを様々な場所に残すことができます；“永遠のパーソナリティーである魂のセルフ・エピグノシス”は、新たなパーソナリティーを生みだす(incarnate)ことさえできるでしょう。これは超意識であるセルフ・エピグノシスの結果ですが、またこの質、私達の本質の中にある　　　　　　　多重性という質の結果でもあるのです；これは本当に理解を越えていることです。

　　この質、あるいは素質的可能性のサイクルの中にあるこれらの能力は、人間のイデアを通じて表現される、あるいは将来現われることになる全ての現れに与えられています。聖霊的現れについてはどうでしょうか？聖霊的現れは、この多重性という質を表現するでしょうか？答えはイエスですが、異なった仕方で表現します。聖霊的現れはあらゆるものの中にあり、他の全ての現れの中にあるので、エレメンタルを作りだすことはしません。それらは違いはありますが私達の魂のセルフ・エピグノシスと類似しています。それらは制限あるその意識の中に、セルフ・エピグノシスのプログラミングを有しています。しかし、ロゴス的現れにはそのような制限はありません。明確にすべきことがたくさんあるので、このテーマについては将来さらに話しましょう。

私達は常に主、絶対、主の聖性の中に抱かれています。

EREVNA19//20'M'/WP/W/SET/3/KE3

LESSON/20M IS A FOLLOW UP OF 19M